

Patch for Ubuntu - ユーザーズ・ガイド



Special notice

Before using this information and the product it supports, read the information in [Notices \(on page xxv\)](#).

Edition notice

This edition applies to BigFix version 10 and to all subsequent releases and modifications until otherwise indicated in new editions.

目次

Special notice.....	ii
Edition notice.....	iii
第 1 章. 概要.....	5
サポートされるバージョンおよびプラットフォーム.....	5
サイトのサブスクリプション.....	6
第 2 章. Patch for Ubuntu の使用.....	7
Fixlet を使用したパッチ.....	7
アクション・ログイン.....	8
Ubuntu Fixlet 向けパッチ・サイト.....	10
置き換えられる Fixlet.....	11
よくある質問 - 置き換え.....	12
パッチのアンインストール.....	14
リポジトリの追加.....	17
リポジトリのインポート.....	18
リポジトリへのエンドポイントの登録.....	19
リポジトリの削除.....	21
よくある質問.....	22
付録 A. Support.....	24
Notices.....	XXV

第1章. 概要

BigFix Patch for Ubuntu の Fixlet を使用することにより、Ubuntu からリリースされるセキュリティー・アップデートおよびサービス・パックを管理することができます。Fixlet は Ubuntu 向けパッチ・サイトから入手できます。

BigFix Patch for Ubuntu を使用すると、Ubuntu クライアントを常に最新の更新およびサービス・パックが適用された状態にすることができます。パッチ管理は、Ubuntu 向けパッチ・サイトを使用して行うことができます。新しいセキュリティー・アップデートが使用可能になるたびに、BigFix により Fixlet がリリースされます。この Fixlet により、エンタープライズ内のコンピューターのうち、当該の更新が必要なものがすべて識別され、更新が適用されます。

BigFix コンソールのオペレーターは、キーを数回押すだけで、すべての関連コンピューターにパッチを適用し、ネットワーク全体における適用の進行状況を視覚化することができます。BigFix エージェントは、オペレーティング・システムのバージョン、プロセッサー、および既存のインストール済みパッケージを調べて、パッチの必要なタイミングと要否を判別します。

Fixlet を使用することにより、大量の更新とパッチを比較的容易に管理し、対象を詳細に絞り込んだ自動適用を希望のスケジュールで実行できます。ネットワーク帯域幅を最適化するために大容量のダウンロードを段階的に実行でき、インベントリーまたは監査の制御のために、適用プロセス全体をモニター、グラフ化、および記録できます。

新機能

Patch Management for Ubuntu は、Ubuntu 20.04 LTS をサポートするようになりました。

サポートされるバージョンおよびプラットフォーム

Ubuntu 向けパッチ・サイトでは、Ubuntu バージョン 14.04、16.04、18.04 LTS (Long Term Support) がサポートされています。これらは通常、大規模な適用に使用されるリリースです。

Ubuntu Fixlet 向けパッチ・サイトでは、以下のバージョンおよびプラットフォームがサポートされています。

表 1. Ubuntu Fixlet 向けパッチ・サイトでサポートされるバージョンおよびプラットフォーム

バージョン\n	プラットフォーム (サーバーお よびデスクトップをサポート)	Fixlet サイト名
Ubuntu 10.04 LTS*	x86 および AMD64	Ubuntu 1004 向けパッチ
Ubuntu 12.04 LTS**	x86 および AMD64	Ubuntu 1204 向けパッチ
Ubuntu 14.04 LTS**	x86 および AMD64	Ubuntu 1404 向けパッチ
Ubuntu 16.04 LTS	x86 および AMD64	Ubuntu 1604 向けパッチ
Ubuntu 18.04 LTS	AMD64	Ubuntu 1804 向けパッチ
Ubuntu 20.04 LTS	AMD64	Ubuntu 2004 向けパッチ

Ubuntu では、「LTS」とは「Long Term Support」を表します。これは通常、大規模な適用に使用されるリリースです。



注: * Ubuntu 10.4 LTR および 12.04 LTS は、サポート終了日に達しており、セキュリティー更新およびメンテナンス更新を含む、更新のサポートを行っていません。一方、BigFix は、サポート終了日に達した製品に対しては、コンテンツおよびサポートの提供を行っていません。



注: **Ubuntu 12.04 LTS は、サポート終了日に達しています。2017 年 7 月 31 日より後は、Ubuntu 12.04 LTS 向けパッチ・サイトは非推奨となります。それに従って、「ライセンス概要 (Licence Overview)」ダッシュボードではそのサイト名にマークが付けられます。

場合によっては、Ubuntu が、関連する発表なしでパッケージをリリースすることがあります。そのようなパッケージは、Fixlet タイトルに「未指定」と示されています。それらのパッケージは、メイン、ユニバース、制限付き、およびマルチバースの各チャネル内の「セキュリティー」リポジトリにリリースされます。



注: Ubuntu パッチの「低」、「中」、「高」の重大度カテゴリーは、CVE に示されています。BigFix Fixlet は、Ubuntu がリリースするパッケージ・アナウンスからの情報を参照します。Ubuntu アナウンスでコンテンツの重大度が提供されない場合、Fixlet は重大度タイプとして「未指定」を示します。

サイトのサブスクリプション

サイトとは、ユーザー、HCL、またはベンダーにより内部的に作成される Fixlet メッセージの集合です。

実装環境内のシステムにパッチを適用するために、サイトにサブスクライブして Fixlet メッセージにアクセスします。

サイトのサブスクリプションを追加するには、ベンダーまたは HCL からマストヘッド・ファイルを入手するか、またはライセンス・ダッシュボードを使用します。Fixlet サイトのサブスクライブについて詳しくは、『BigFix インストール・ガイド』を参照してください。

サイトについて詳しくは、『BigFix コンソール・オペレーター・ガイド』を参照してください。

Ubuntu Fixlets をデプロイする前に、BigFix サーバーをパッチ・サポート・サイトにサブスクライブする必要があります。サイトを収集した後、デプロイメントに基づいて以下のタスクを選択し、実行します。

タスク ID: 65 Ubuntu のダウンロード・ホワイトリストのセットアップ (Windows サーバー)

このタスクは Windows サーバーに適用可能です。

タスク ID: 66 Ubuntu のダウンロード・ホワイトリストのセットアップ (Linux サーバー)

このタスクは Linux サーバーに適用可能です。

このタスクを実行する必要があります。そうしないと、「要求された URL は、この適用のダウンロード・ホワイトリストに適合していません。」というエラーが発生する可能性があります。

Ubuntu はパッケージの取り出し中に動的ダウンロードを使用します。セキュリティーの手段として、サーバーはホワイトリスト・ファイルのパターンに一致する URL を持つ動的ダウンロード要求以外の要求をすべてブロックします。エンドポイントは別にして、BigFix リレー・サーバーがサブスクライブ済みであることを確認してください。

第2章. Patch for Ubuntu の使用

Ubuntu セキュリティー・アップデート用の Ubuntu Fixlet サイトには、BigFix コンソールからアクセスします。

Patch Management for Ubuntu の Fixlet を使用することにより、Ubuntu から発行されるセキュリティー・アップデートを管理することができます。これらの Fixlet は、Ubuntu Fixlet 向けパッチ・サイトで入手することができます。このサイトには、Endpoint Manager コンソールからアクセスします。Fixlet に対して適用される「置き換え (superseded)」という用語は、BigFix と Launchpad の Web サイト (Ubuntu を含む各種ソフトウェアをホストする Web サイト) では異なる意味で使用されます。

Fixlet を使用したパッチ

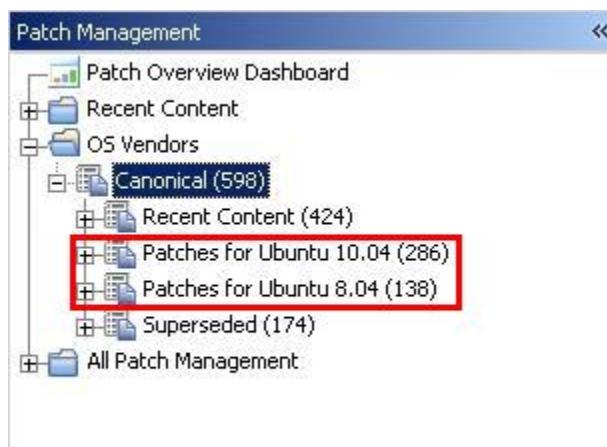
コンソールから、適用する必要がある適切な Fixlet に対するアクションを選択します。アクションは適用環境全体に伝搬され、Fixlet 作業域と「アクションの実行」ダイアログで行った設定に基づいてパッチが適用されます。

Ubuntu Fixlet は BigFix コンソールから適用できます。

「パッチ管理」ドメインで、ナビゲーション・ツリーの「OS ベンダー」をクリックして、「Canonical」をクリックします。

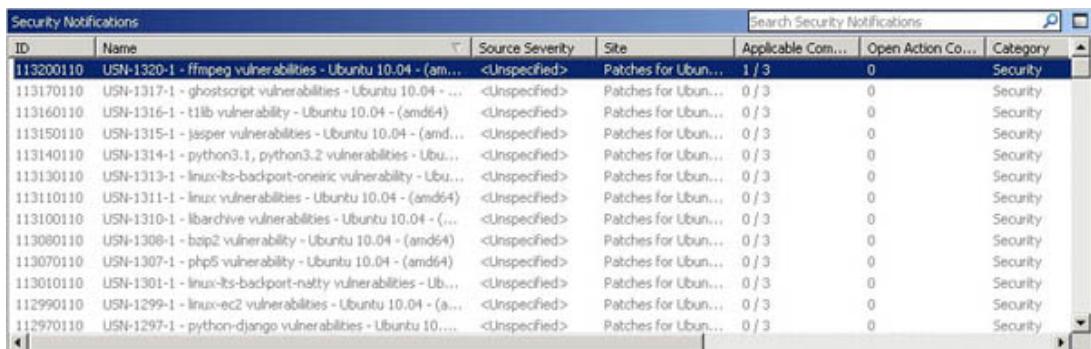
ナビゲーション・ツリーが展開されます。適切なバージョンの Ubuntu 向けパッチを選択します。

図 1. 適切なバージョンの Ubuntu 向けパッチの選択



右側にあるリスト・パネルで、適用する Fixlet をダブルクリックします。

図 2. リスト・パネルからの Fixlet の選択

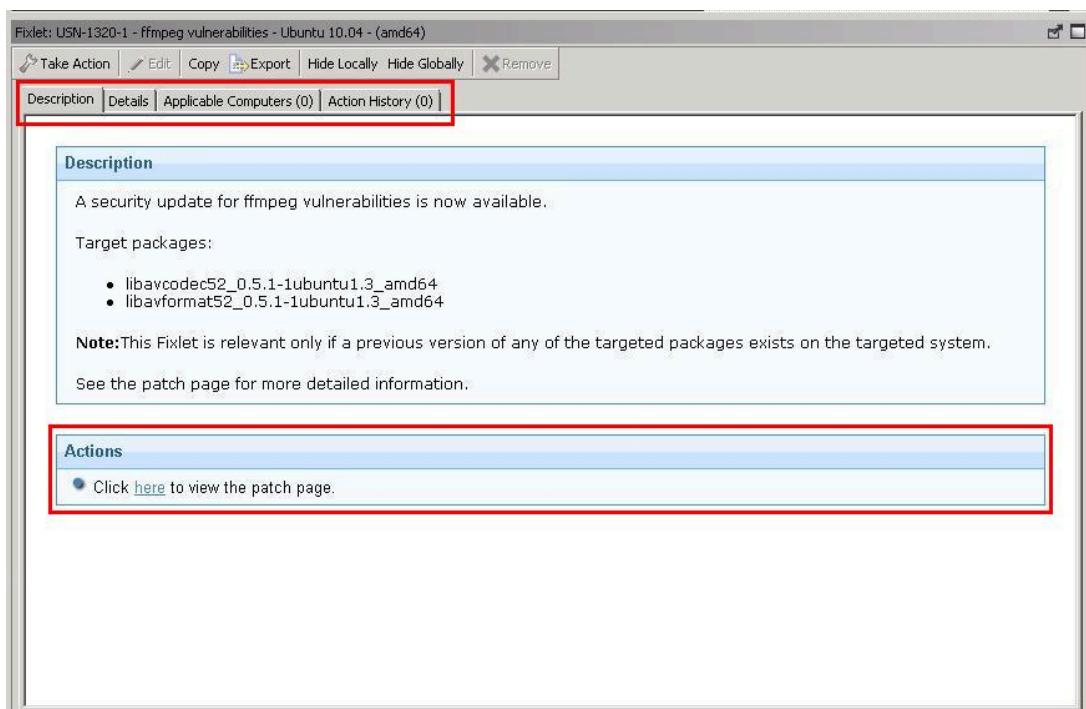


ID	Name	Source Severity	Site	Applicable Com...	Open Action Co...	Category
113200110	USN-1320-1 - ffmpeg vulnerabilities - Ubuntu 10.04 - (amd64)	<Unspecified>	Patches for Ubuntu 10.04	1 / 3	0	Security
113170110	USN-1317-1 - ghostscript vulnerabilities - Ubuntu 10.04 - (amd64)	<Unspecified>	Patches for Ubuntu 10.04	0 / 3	0	Security
113160110	USN-1316-1 - t1lib vulnerability - Ubuntu 10.04 - (amd64)	<Unspecified>	Patches for Ubuntu 10.04	0 / 3	0	Security
113150110	USN-1315-1 - jasper vulnerabilities - Ubuntu 10.04 - (amd64)	<Unspecified>	Patches for Ubuntu 10.04	0 / 3	0	Security
113140110	USN-1314-1 - python3.1, python3.2 vulnerabilities - Ubuntu 10.04 - (amd64)	<Unspecified>	Patches for Ubuntu 10.04	0 / 3	0	Security
113130110	USN-1313-1 - linux-ks-backport-oneiric vulnerability - Ubuntu 10.04 - (amd64)	<Unspecified>	Patches for Ubuntu 10.04	0 / 3	0	Security
113110110	USN-1311-1 - linux vulnerabilities - Ubuntu 10.04 - (amd64)	<Unspecified>	Patches for Ubuntu 10.04	0 / 3	0	Security
113100110	USN-1310-1 - libarchive vulnerabilities - Ubuntu 10.04 - (amd64)	<Unspecified>	Patches for Ubuntu 10.04	0 / 3	0	Security
113080110	USN-1308-1 - bzip2 vulnerability - Ubuntu 10.04 - (amd64)	<Unspecified>	Patches for Ubuntu 10.04	0 / 3	0	Security
113070110	USN-1307-1 - php5 vulnerability - Ubuntu 10.04 - (amd64)	<Unspecified>	Patches for Ubuntu 10.04	0 / 3	0	Security
113010110	USN-1301-1 - linux-its-backport-natty vulnerabilities - Ubuntu 10.04 - (amd64)	<Unspecified>	Patches for Ubuntu 10.04	0 / 3	0	Security
112990110	USN-1299-1 - linux-c2 vulnerabilities - Ubuntu 10.04 - (amd64)	<Unspecified>	Patches for Ubuntu 10.04	0 / 3	0	Security
112970110	USN-1297-1 - python-django vulnerabilities - Ubuntu 10.04 - (amd64)	<Unspecified>	Patches for Ubuntu 10.04	0 / 3	0	Security

作業域で Fixlet が開きます。選択した Fixlet の詳細を確認するには、ウィンドウの上部にあるタブをクリックします。

「アクション」ボックス内のリンクをクリックして、適用を開始します。Ubuntu の Web サイトが開き、パッケージ情報と、ファイルをダウンロードするためのリンクが表示されます。

図 3. Fixlet の詳細および「アクション」ボックス内で適用を開始するリンク



アクション・ロギング

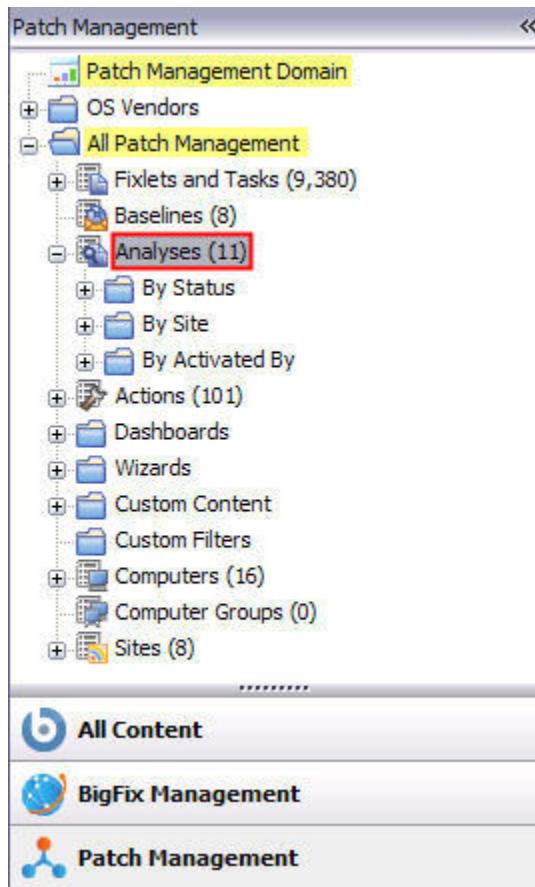
! **重要:** このトピックのステップは、Linux RPM パッチ・サイトが廃止されているため適用できません。詳しくは、<https://forum.bigfix.com/t/ibm-bigfix-patch-to-deprecate-and-end-support-for-linux-rpm-patching-site-on-september-29-2017/22405> を参照してください。

アクションが成功したかどうかをエンドポイントのログ・ファイルを調べて確認するには、「エンドポイントの依存解決 - 適用結果」分析を使用します。パッチの適用前にテスト実行を適用することで、依存関係が解決されたかどうかを調べることもできます。

アクションが成功した場合、結果はエンドポイント上のログ・ファイルに書き込まれます。アクションの結果は、「エンドポイントの依存解決 - 適用結果」分析をアクティブにすると表示できます。

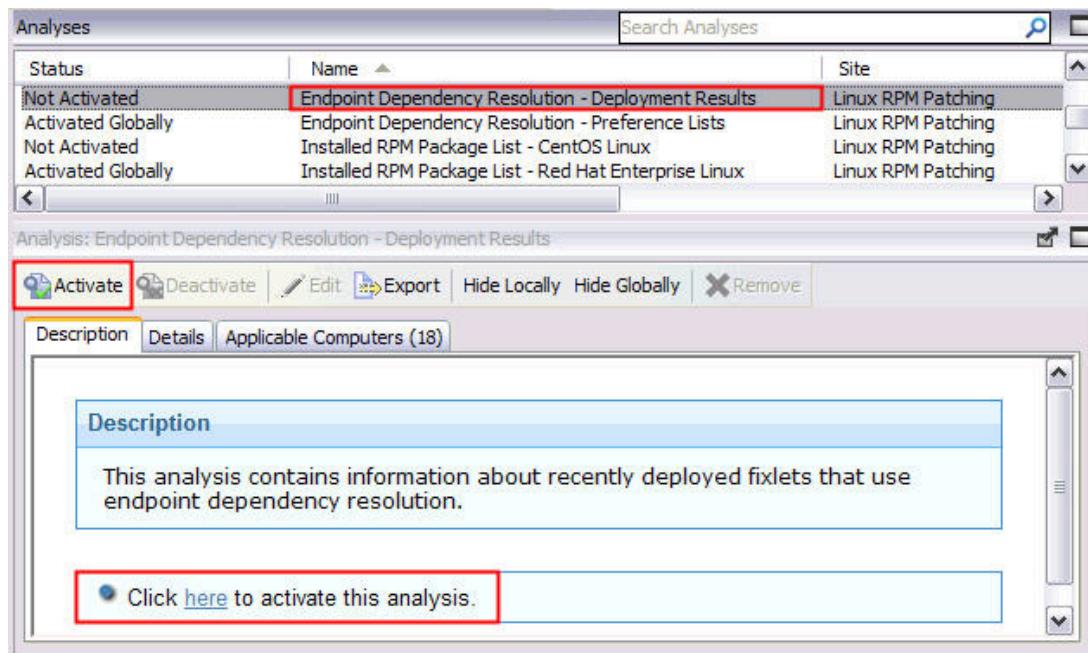
分析をアクティブにするには、「パッチ管理ドメイン」をクリックします。ナビゲーション・ツリーから、「すべてのパッチ管理 (All Patch Management)」 > 「分析」をクリックします。

図 4. ナビゲーション・ツリーからの「分析」の選択



右側にある「分析」リスト・パネルから「エンドポイントの依存解決 - 適用結果」をクリックします。「アクティブ化」をクリックするか、「アクション」ボックス内で分析をアクティブにするリンクをクリックします。

図 5. 「エンドポイントの依存解決 - 適用結果」分析のアクティブ化



分析をアクティブ化すると表示される「分析」ウィンドウで、「結果」タブをクリックします。

エンドポイントのプロパティーを確認するときには、そのシステム上の適用に関する最新情報を表示できます。このデータを表示するには、「すべてのコンテンツ」ドメインに移動し、「コンピューター」ノードを選択します。調べるコンピューターを作業域で選択し、「適用の結果」セクションまでスクロールダウンします。

Ubuntu パッチ Fixlet を実行するときには、パッチを適用する前にテスト実行を適用することもできます。「適用の結果」分析を表示して、依存関係が解決されたかどうか、およびインストールが成功したかどうかを判別できます。

「エンドポイントの依存解決 - 適用結果の分析の報告件数」と呼ばれるタスクを実行することで、出力の件数を制限できます。このタスクにアクセスするには、ナビゲーション・ツリーから「すべてのパッチ管理 (All Patch Management)」>「分析」をクリックし、Ubuntu サブノードをクリックします。デフォルトの分析の報告件数は、100 エントリーです。



注: テストが失敗しても、このアクションは「修正済み」と報告します。

Ubuntu Fixlet 向けパッチ・サイト

Ubuntu セキュリティー・アップデートは、メール・リスト、RSS フィード、Ubuntu の Web サイト、および Launchpad (Ubuntu などのアプリケーションをホストする Web サポート・サイト) から入手できます。

Ubuntu Fixlet 向けパッチ・サイトには、Ubuntu セキュリティー・アップデート用の、対応する Fixlet コンテンツが用意されています。Ubuntu は、セキュリティー情報をメール・リストおよび RSS フィードによって配信します。インストール・パッケージとセキュリティー情報の詳細も、Ubuntu と Launchpad の Web サイトを通じてリリースさ

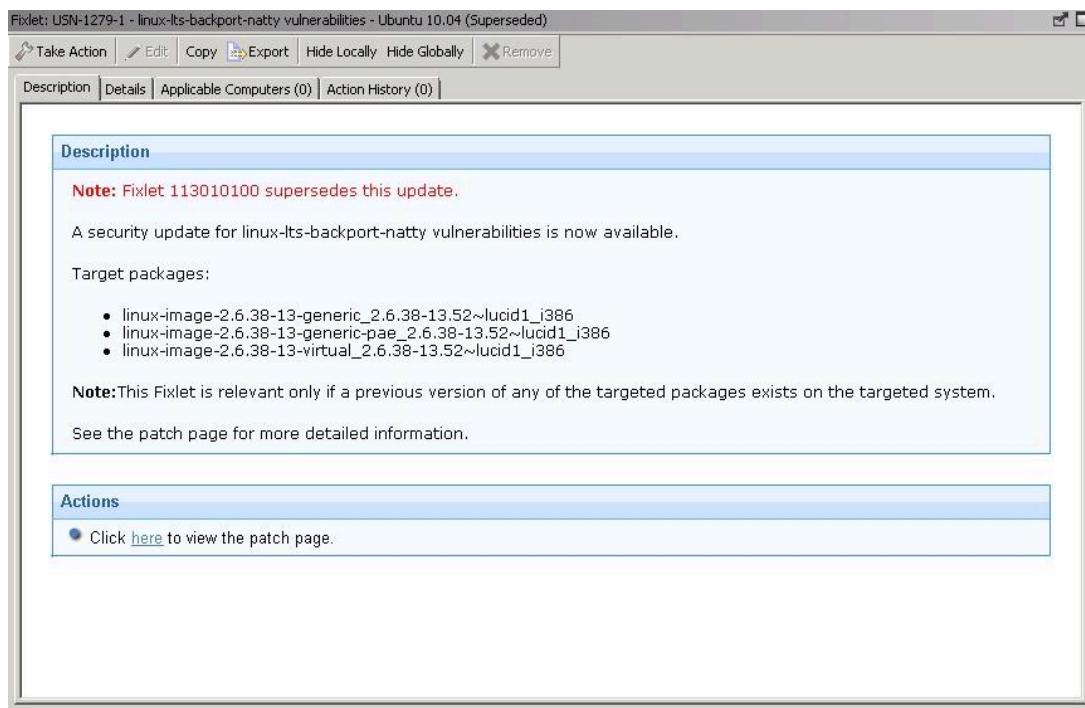
れます。Ubuntu の Web サイトでは、セキュリティー情報のアーカイブが保持されています。Launchpad の Web サイトでは、Ubuntu を含む、さまざまなソフトウェアの Web サイトがホスティングされています。

置き換えられる Fixlet

BigFix では、「置き換え (supersedence)」とは複数のパッケージを提供する Fixlet のプロパティーを指します。Launchpad (Ubuntu などのアプリケーションのホスト Web サイト) では、「置き換え (supersedence)」とは各パッケージのプロパティーを指します。

置き換えられる Fixlet とは、古いパッケージが含まれた Fixlet のことです。Fixlet が置き換えられると、新しいバージョンのパッケージが含まれた新規 Fixlet が存在するようになります。新規 Fixlet の ID は、置き換えられた Fixlet の説明で確認できます。

図 6. 新規 Fixlet の ID を示す、置き換えられた Fixlet の説明



BigFix および Launchpad による「置き換え (supersedence)」の定義

BigFix for Patch Management と Launchpad では、「置き換え (supersedence)」という用語の使用方法が異なります。Launchpad の Web サイトでパッケージのステータスが「置き換え (superseded)」となっている場合、これは BigFix で Fixlet が「置き換え」と表示されている場合とは意味が異なります。

Launchpad の用語では、「置き換え (supersedence)」とは各パッケージのプロパティーを指します。BigFix for Patch では、「置き換え (supersedence)」とは複数のパッケージを提供する Fixlet のプロパティーを指します。Fixlet が置き換えられているということは、同じパッケージのセットを持つ、より新しく、かつ拡張された Fixlet が存在していることを意味します。

よくある質問 - 置き換え

BigFix での Ubuntu パッチ適用における置き換えに関してよくある質問とそれに対する答えを以下に示します。

置き換えとは何ですか？

置き換えとは、古くなった Fixlet を最新の Fixlet に置き換えることに関するものです。

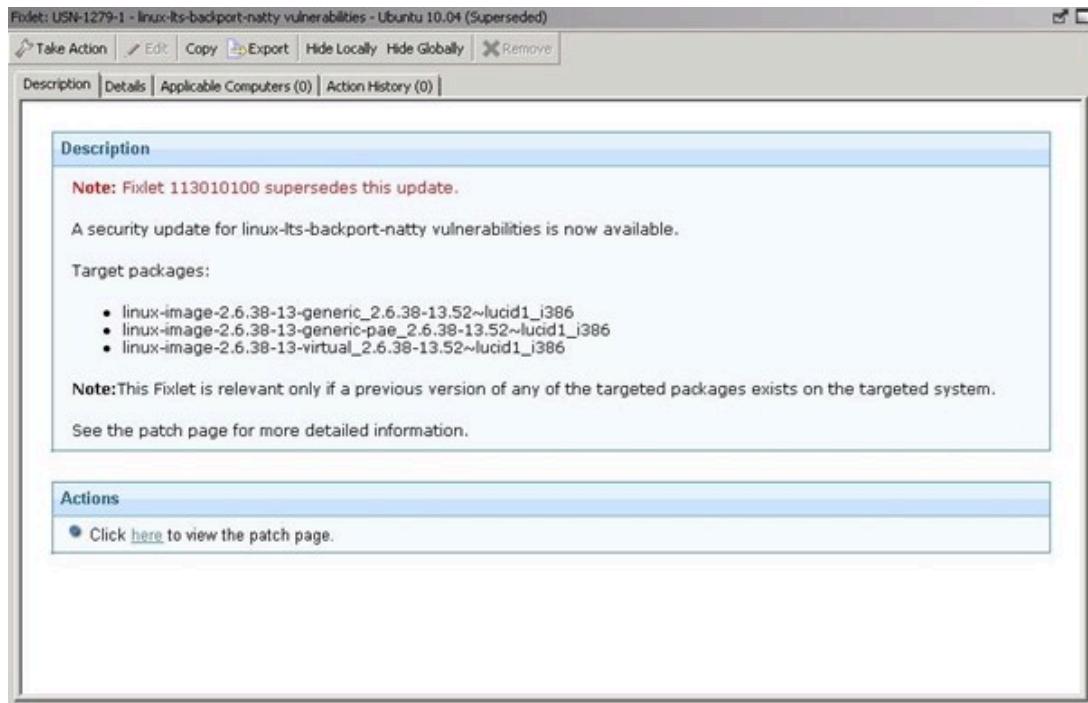
BigFix パッチ適用で置き換えはどのように機能しますか？

置き換えは、新規にリリースされた Fixlet を使用して、BigFix アプリケーション Fixlet を最新バージョンに更新する場合に役立ちます。置き換えられる Fixlet は、バグトラッキングに関する以下の詳細が含まれている古い Fixlet と置き換わります。



注: Fixlet の `x-Fixlet-Superseded` フィールドは、新しいバージョン番号を示します。

図 7. 置き換え情報



置き換え先バージョン (新しいバージョン) は、Ubuntu Fixlet のサンプルのスクリーンショットに示すように「説明」タブに表示されます。

置き換え先とは何ですか？

置き換え先は、古くなったバージョンを置き換えるか更新する最新の Fixlet です。

置き換え元とは何ですか？

置き換え元は、最新の Fixlet に置き換えられる古くなった Fixlet です。

アプリケーションの最新のバージョンが使用可能である場合でも、置き換えられる Fixlet を使用して、同じアプリケーションをデプロイできますか？

はい。アプリケーションを最新のバージョンに更新することもできます。また、置き換えられる Fixlet を使用して、アプリケーションをデプロイすることもできます。アプリケーションに使用可能な更新があることは、Fixlet の説明に示されます。

置き換えられる Fixlet を使用できない例外とはどのようなものですか？

Google Chrome などのアプリケーションでは、使用可能な最新バージョンのみをダウンロードできます。

- **ダウンロード可能なバージョン**: このようなアプリケーションでは、置き換えられる Fixlet は使用可能な最新バージョンのみをデプロイします。
- **理由**: ダウンロード・リンクは、通常の Fixlet であるか置き換えられる Fixlet であるかに関係なく、すべての Fixlet で一定です。

パッケージのアーキテクチャーは、置き換えて役割を果たしていますか？

はい。例えば、amd64 アーキテクチャー Fixlet は、別の amd64 アーキテクチャー Fixlet にのみ置き換えることができ、それ以外のアーキテクチャー Fixlet に置き換えることはできません。

Ubuntu で置き換えはどのように機能しますか？

Ubuntu での Fixlet の置き換えは、パッケージ名とバージョン番号に基づいて機能します。

カーネル Fixlet とはどのようなもので、Ubuntu カーネル Fixlet では置き換えがどのように機能しますか？

カーネル Fixlet は、パッケージ名の前に *linux-image* が付与された Fixlet で、例えば、*linux-image-<version>-<flavour>* などです。

カーネル Fixlet での置き換え:

- バージョン X.Y.Z-W のカーネル Fixlet の場合、X.Y はマイナー・バージョンと呼ばれます。置き換えが機能するためには、マイナー・バージョンが一致することが前提となります。つまり、Ubuntu カーネル Fixlet には HWE (ハードウェア有効化) シナリオが必要であるため、置き換え先のマイナー・バージョンが置き換え元のパッケージと一致する必要があります。

例えば、*linux-image-4.4.x* が置き換わることができるのは別の *linux-image-4.4.x* のみであり、*linux-image-4.8.x* が置き換わることができるのは別の *linux-image-4.8.x* のみです。

- 置き換えが発生するのは、それが同じタイプに属する場合のみです。つまり、*linux-image-<バージョン>-generic* が置き換わることができるのは別の *linux-image-<バージョン>-generic* のみです。これは、名前に extra フレーバー・タイプを持つものに適用されます。

例えば、*linux-image-extra-4.4.0-101-generic* は、*linux-image-extra-4.4.0-103-generic* に置き換わりますが、*linux-image-4.4.0-103-generic* に置き換わることはできません。

USN Fixlet および未指定の Fixlet の置き換え先と置き換え元のパッケージ・バージョンが Ubuntu で類似していると、どうなりますか？

Ubuntu では、USN ID が指定されていないすべての Fixlet は未指定の Fixlet にグループ化されます。

- USN Fixlet および未指定の Fixlet の置き換え先および置き換え元のパッケージ・バージョンが類似している場合は、USN Fixlet に優先権があります。つまり、USN Fixlet が未指定の Fixlet に置き換わります。
- 両方の Fixlet でパッケージ・バージョンが類似している場合に、未指定の Fixlet が USN Fixlet に置き換わることはありません。

Ubuntu では未指定の Fixlet が USN Fixlet に置き換わることができますか？

はい。Ubuntu で未指定の Fixlet が USN Fixlet に置き換わることができるのは、未指定の Fixlet のパッケージ・バージョンが USN Fixlet のパッケージ・バージョンよりも大きい場合のみです。

同じ Fixlet が 2 回以上置き換わりますか？

いいえ。Fixlet が最新バージョンに置き換わると、Fixlet は再度置き換わることがないように対応する OS コードの `seenfile` で `superseded:True` とマークされます。

置き換えられた Fixlet では関連度の変更がありますか？

はい。以下のように、置き換えられる Fixlet に対して追加で関連度の検査が必要です。<Relevance>(value of setting
`"_BESClient_Ubuntu_EnableSupersededEval" of client as integer = 1) | false</Relevance>`

パッチのアンインストール



重要: Linux RPM パッチ・サイトが廃止されているため、このトピックのステップは適用されません。詳しくは、<https://forum.bigfix.com/t/ibm-bigfix-patch-to-deprecate-and-end-support-for-linux-rpm-patching-site-on-september-29-2017/22405> を参照してください。

「Ubuntu .deb パッケージのアンインストール (Uninstall Ubuntu .deb packages)」タスクを設定して、他のパッケージに対する依存関係を持たない Ubuntu Debian パッケージをアンインストールします。アンインストール・アクションでは、Ubuntu .deb パッケージは削除されますが、アンインストールされるパッケージの構成ファイルは削除されません。「アクション」ボックス内のページ・アクション・リンクを介して構成ファイルも削除することができます。

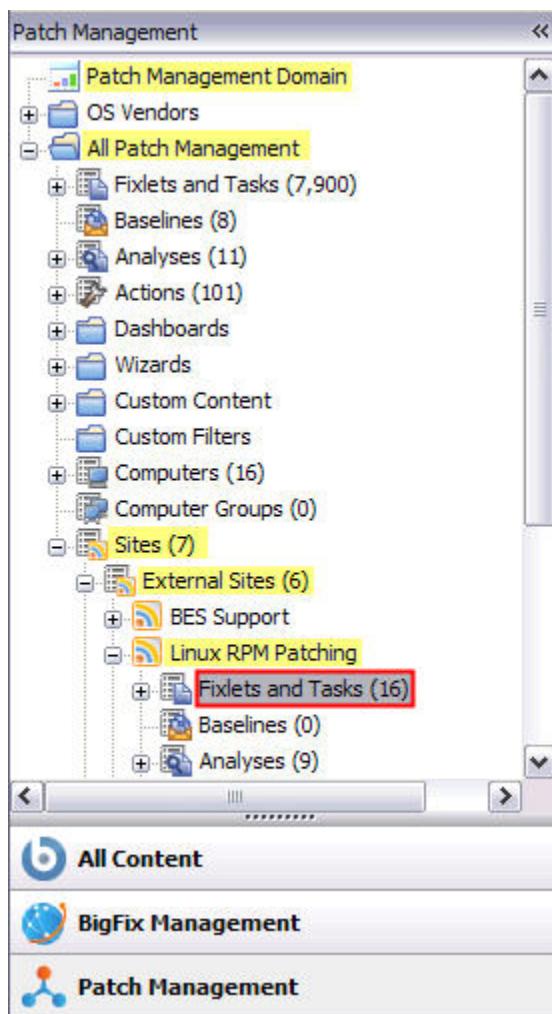
「Ubuntu .deb パッケージのアンインストール (Uninstall Ubuntu .deb packages)」タスクを使用して、Ubuntu Debian パッケージをアンインストールできます。



注: 「Ubuntu .deb パッケージのアンインストール (Uninstall Ubuntu .deb packages)」タスクでは、削除するパッケージが他のパッケージに対する依存関係を持たない場合にのみ、パッケージがアンインストールされます。

パッチをアンインストールするには、「パッチ管理ドメイン」をクリックします。ナビゲーション・ツリーで、「すべてのパッチ管理 (All Patch Management)」>「サイト」>「外部サイト」>「Linux RPM パッチ」>「Fixlet とタスク」をクリックします。

図 8. ナビゲーション・ツリーからの「Fixlet とタスク」の選択



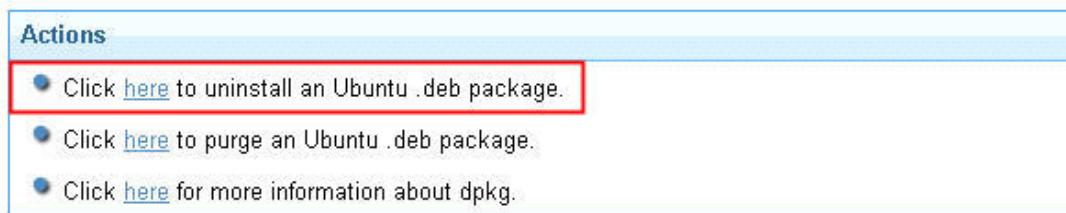
右側にあるリスト・パネルで、「Ubuntu .deb パッケージのアンインストール (Uninstall Ubuntu .deb Packages)」を選択します。

図 9. アンインストールする Ubuntu .deb パッケージの選択

Fixlets and Tasks		
Search Fixlets and Tasks		
Name	Site	Applicable Computer Count
Uninstall Ubuntu .deb Packages	Linux RPM Patching	1 / 13

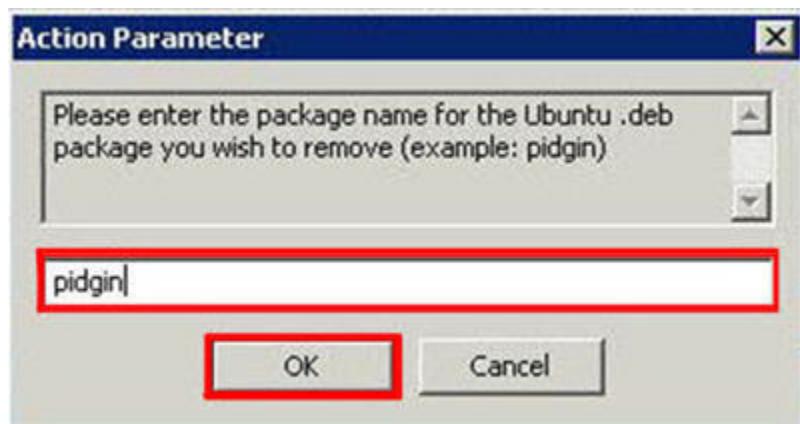
「アクション」ボックス内でアンインストール・アクションを開始するリンクをクリックします。

図 10. Ubuntu .deb パッケージをアンインストールするリンクの選択



「アクション・パラメーター」ウィンドウが開きます。パッケージ名を入力し、「OK」をクリックします。影響を受けるコンピューターは、パッチのアンインストール・タスクの実行結果を完了または失敗として報告します。「エンドポイントの依存解決・適用結果」分析をアクティブにして、ログ・ファイル内のアクションの結果を表示することもできます。「エンドポイントの依存解決・適用結果」分析の使用について詳しくは、[アクション・ロギング](#)（（ページ）8）を参照してください。

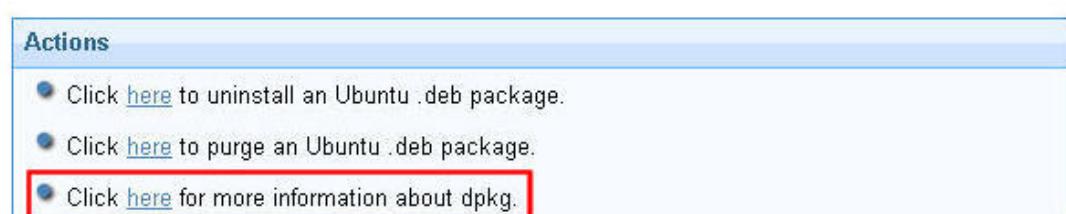
図 11. パッケージ名の入力および「OK」のクリック



アンインストール・アクションでは、Ubuntu .deb パッケージは削除されますが、アンインストールされるパッケージの構成ファイルは削除されません。ページ・アクション・リンクをクリックすると、構成ファイルも削除されます。

「アクション」ボックスで最後のアクションを実行すると、「**dpkg**」（Ubuntu Debian パッケージ・マネージャー）の使用についての情報を示すリンクが開きます。

図 12. dpkg パッケージ・マネージャーについての情報を示すリンクの選択



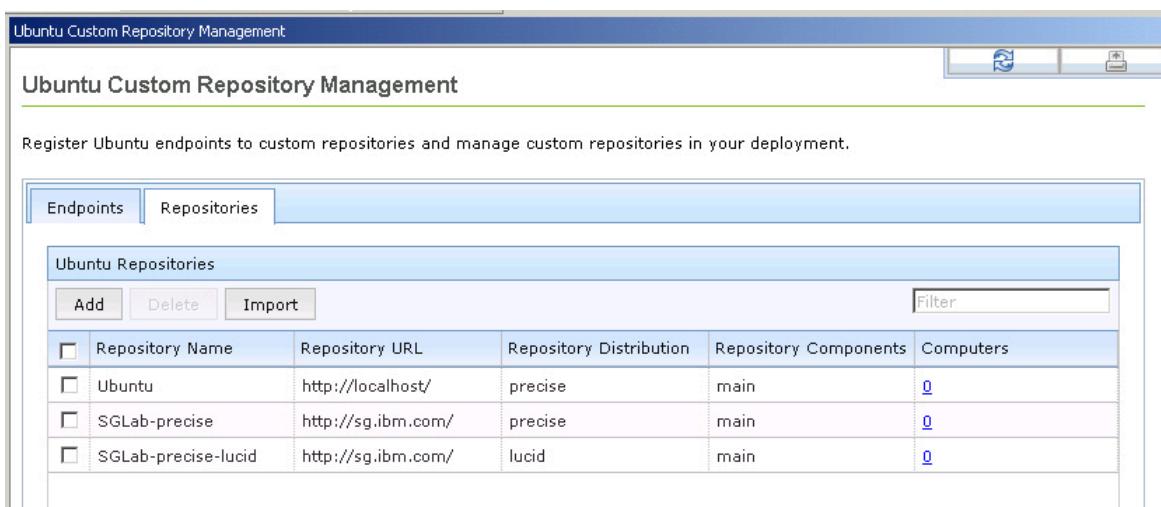
リポジトリの追加

Ubuntu カスタム・リポジトリ管理ダッシュボードを使用して、リポジトリを追加できます。

以下のタスクを適用して、「パッチ・サポート」サイトにある分析をアクティブ化する必要があります。

- 分析: リポジトリ構成 - Ubuntu
- タスク(T): カスタム・リポジトリ・サポートの有効化 - Ubuntu

- 「すべてのコンテンツ」ドメインから、「サイト」>「外部サイト」>「パッチ・サポート」>「ダッシュボード」>「Ubuntu カスタム・リポジトリ管理 (Ubuntu Custom Repository Management)」に移動します。
- 「リポジトリ」タブから「追加」をクリックします。



The screenshot shows the 'Ubuntu Custom Repository Management' interface. The title bar is 'Ubuntu Custom Repository Management'. Below it, a sub-header says 'Register Ubuntu endpoints to custom repositories and manage custom repositories in your deployment.' The main area has two tabs: 'Endpoints' (selected) and 'Repositories'. Under 'Repositories', there is a sub-header 'Ubuntu Repositories' with three buttons: 'Add', 'Delete', and 'Import'. A 'Filter' input field is also present. A table lists four repositories:

	Repository Name	Repository URL	Repository Distribution	Repository Components	Computers
<input type="checkbox"/>	Ubuntu	http://localhost/	precise	main	0
<input type="checkbox"/>	SGLab-precise	http://sg.ibm.com/	precise	main	0
<input type="checkbox"/>	SGLab-precise-lucid	http://sg.ibm.com/	lucid	main	0

- 「新規リポジトリの追加 (Add a New Repository)」ウィンドウで、以下のフィールドに詳細を入力します。
 - リポジトリ名
 - リポジトリ URL
 - リポジトリの配信 (Repository Distribution)
 - リポジトリ・コンポーネント (Repository Components)

Add a New Repository

Repository Name
Ubuntu 2

Repository URL
http://sg.ibm.com

Repository Distribution
precise

Repository Components
universe

Save Cancel

4. 「保存」をクリックします。

Ubuntu Custom Repository Management

Ubuntu Custom Repository Management

Register Ubuntu endpoints to custom repositories and manage custom repositories in your deployment.

Ubuntu Repositories				
	Add	Delete	Import	Filter
	Repository Name	Repository URL	Repository Distribution	Repository Components
<input type="checkbox"/>	Ubuntu	http://localhost/	precise	main
<input type="checkbox"/>	SGLab-precise	http://sg.ibm.com/	precise	main
<input type="checkbox"/>	SGLab-precise-lucid	http://sg.ibm.com/	lucid	main
<input type="checkbox"/>	Ubuntu 2	http://sg.ibm.com	precise	universe

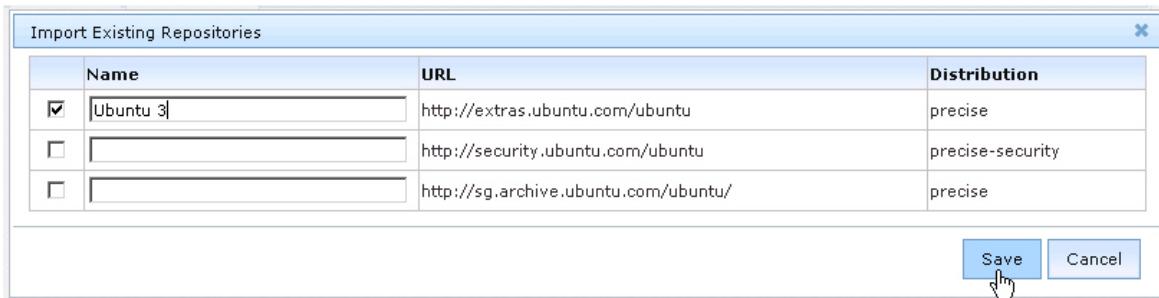
これでリポジトリが追加されました。

リポジトリのインポート

Ubuntu カスタム・リポジトリ管理ダッシュボードを使用して、リポジトリをインポートできます。

「パッチ・サポート」サイトにある「分析: リポジトリ構成 - Ubuntu」をアクティブ化する必要があります。

1. 「すべてのコンテンツ」ドメインから、「サイト」>「外部サイト」>「パッチ・サポート」>「ダッシュボード」>「Ubuntu カスタム・リポジトリ管理 (Ubuntu Custom Repository Management)」に移動します。
2. 「リポジトリ」タブから「インポート」をクリックします。
3. 「新規リポジトリのインポート (Import a New Repository)」ウィンドウで、リポジトリ名を入力します。



4. 「保存」をクリックします。

Repository Name	Repository URL	Repository Distribution	Repository Components	Computers
Ubuntu	http://localhost/	precise	main	0
SGLab-precise	http://sg.ibm.com/	precise	main	0
SGLab-precise-lucid	http://sg.ibm.com/	lucid	main	0
Ubuntu 2-precise	http://sg.ibm.com	precise	universe	0
Ubuntu 3	http://extras.ubuntu.c...	precise	main	1

これでリポジトリがダッシュボードにインポートされました。

リポジトリへのエンドポイントの登録

Ubuntu カスタム・リポジトリ管理ダッシュボードを使用して、エンドポイントにリポジトリを登録して接続します。

以下のタスクを適用して、「パッチ・サポート」サイトにある分析をアクティブ化する必要があります。

- 分析: リポジトリ構成 - Ubuntu
- タスク(T): カスタム・リポジトリ・サポートの有効化 - Ubuntu

- 「すべてのコンテンツ」ドメインから、「サイト」>「外部サイト」>「パッチ・サポート」>「ダッシュボード」>「Ubuntu カスタム・リポジトリ管理 (Ubuntu Custom Repository Management)」に移動します。
- 「エンドポイント」タブで、リポジトリを登録するエンドポイントを選択します。

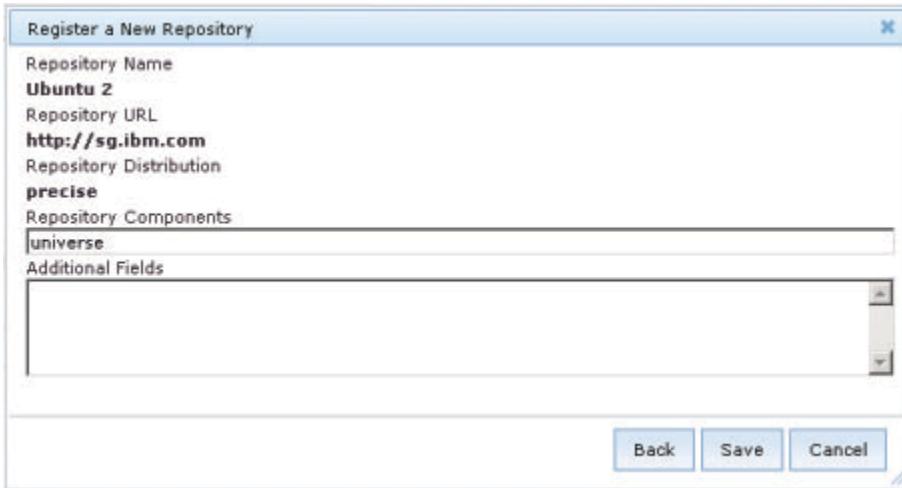
The screenshot shows the 'Ubuntu Custom Repository Management' application window. The 'Endpoints' tab is selected, displaying a table of registered endpoints. One endpoint is listed: 'ubuntu12-desktop-x64' with 'OS Version' 'Linux Ubuntu 12.04.4 L...', 'IP Address' '10.1.222.242,172.17.42.1', 'Subnet Address' '10.1.0.0,172.17.0.0', and 'Repositories' count '3'. The 'Repositories' tab is also visible, showing a table of registered repositories with columns 'Name', 'URL', 'Repository Distribution', and 'Repository Components'.

Name	URL	Repository Distribution	Repository Components
<Unspecified>	http://extras.ubuntu.com/ubuntu	precise	main
<Unspecified>	http://security.ubuntu.com/ubuntu	precise-security	main,restricted
<Unspecified>	http://sg.archive.ubuntu.com/ubuntu	precise	main,restricted

3. 「新規リポジトリの登録 (Register a new repository)」をクリックします。選択したエンドポイントのリポジトリが、ウィンドウの下部にリストされます。リポジトリに未指定として名前が付けられる場合は、「リポジトリ」リストにリストされないことを意味します。
4. 「新規リポジトリの登録 (Register a New Repository)」ウィンドウで、リポジトリを選択して「次へ」をクリックします。

The screenshot shows the 'Register a New Repository' dialog box. It lists four repositories: 'Ubuntu', 'SGLab-precise', 'SGLab-precise-lucid', and 'Ubuntu 2-precise'. The 'Ubuntu 2-precise' entry is selected, indicated by a radio button. At the bottom, there are 'Next' and 'Cancel' buttons, with 'Next' being highlighted.

5. 後続のウィンドウに、登録するリポジトリの名前、URL、および配信が表示されます。リポジトリ・コンポーネントを入力します。複数のコンポーネントを区切るにはスペースを使用します。フィールドを追加することもできます。



6. 「保存」をクリックします。
7. 「アクションの実行」ウィンドウで、コンピューターを選択し、「OK」をクリックしてアクションを実行します。

リポジトリの削除

Ubuntu カスタム・リポジトリ管理ダッシュボードを使用して、リポジトリを削除できます。

1. 「すべてのコンテンツ」ドメインから、「サイト」>「外部サイト」>「パッチ・サポート」>「ダッシュボード」>「Ubuntu カスタム・リポジトリ管理 (Ubuntu Custom Repository Management)」に移動します。

	Repository Name	Repository URL	Repository Distribution	Repository Components	Computers
<input type="checkbox"/>	Ubuntu	http://localhost/	precise	main	0
<input type="checkbox"/>	SGLab-precise	http://sg.ibm.com/	precise	main	0
<input type="checkbox"/>	SGLab-precise-lucid	http://sg.ibm.com/	lucid	main	0
<input type="checkbox"/>	Ubuntu 2-precise	http://sg.ibm.com/	precise	universe	0
<input checked="" type="checkbox"/>	Ubuntu 3	http://extras.ubuntu.c...	precise	main	0

2. 「リポジトリ」タブで、削除するリポジトリを選択して「削除」をクリックします。

3. 「はい」をクリックして、リポジトリを削除します。



これでリポジトリが削除されました。

よくある質問

このセクションの質問と回答により、Ubuntu のパッチについてよりよく理解することができます。

EDR ログに次のメッセージが表示され、Fixlet のインストールに失敗した場合の対処方法「警告: 何もインストールできません。最新のカーネルを使用しているかどうか確認してください」

このメッセージは、カーネル・パッケージをデプロイする Fixlet の場合にのみ表示されます。エンドポイントにターゲット・カーネル・パッケージがインストールされていない場合、またはエンドポイントのアクティブ・カーネルがターゲット・カーネル・パッケージより低いバージョンである場合、カーネル Fixlet が関連状態になります。エンドポイントに最新のカーネルがインストールされているもののアクティブに使用していない場合も、カーネルの脆弱性の対象と見なされます。

問題を修復するにはエンドポイントを再起動し、使用可能な最新のカーネルを使用していることを確認します。

未指定の Fixlet とは何ですか?なぜ Fixlet が必要なのですか?

未指定の Fixlet は、Ubuntu のセキュリティー・リポジトリで検出されます。これらは、セキュリティー通知 (USN) が関連付けられていないパッケージ用の Fixlet です。Ubuntu がリリースするすべてのセキュリティー・パッケージに USN が関連付けられているわけではありません。未指定の Fixlet は、そのようなパッケージをカバーします。

USN Fixlet でサポートされるカーネル・パッケージのタイプはどれですか?

Bigfix Patch は、次の USN カーネル・タイプ・パッケージをサポートします。

- linux-image-<version>-generic
- linux-image-<version>-lowlatency
- linux-image-<version>-oracle
- linux-image-<version>-kvm
- linux-image-<version>-oem
- linux-image-<version>-gcp
- linux-image-<version>-azure



注: BigFix パッチは現在、次の USN カーネル・パッケージをサポートしていませ

ん。aws、flo、gke、goldfish、hammerhead、hwe、lpae、mako、nexus4、powerpc、powerpc64、raspi2、snapdragon、これらのパッケージは変更される可能性があります。

Appendix A. Support

For more information about this product, see the following resources:

- [BigFix Support Portal](#)
- [BigFix Developer](#)
- [BigFix Playlist on YouTube](#)
- [BigFix Tech Advisors channel on YouTube](#)
- [BigFix Forum](#)

Notices

This information was developed for products and services offered in the US.

HCL may not offer the products, services, or features discussed in this document in other countries. Consult your local HCL representative for information on the products and services currently available in your area. Any reference to an HCL product, program, or service is not intended to state or imply that only that HCL product, program, or service may be used. Any functionally equivalent product, program, or service that does not infringe any HCL intellectual property right may be used instead. However, it is the user's responsibility to evaluate and verify the operation of any non-HCL product, program, or service.

HCL may have patents or pending patent applications covering subject matter described in this document. The furnishing of this document does not grant you any license to these patents. You can send license inquiries, in writing, to:

*HCL
330 Potrero Ave.
Sunnyvale, CA 94085
USA*

Attention: Office of the General Counsel

For license inquiries regarding double-byte character set (DBCS) information, contact the HCL Intellectual Property Department in your country or send inquiries, in writing, to:

*HCL
330 Potrero Ave.
Sunnyvale, CA 94085
USA*

Attention: Office of the General Counsel

HCL TECHNOLOGIES LTD. PROVIDES THIS PUBLICATION "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. Some jurisdictions do not allow disclaimer of express or implied warranties in certain transactions, therefore, this statement may not apply to you.

This information could include technical inaccuracies or typographical errors. Changes are periodically made to the information herein; these changes will be incorporated in new editions of the publication. HCL may make improvements and/or changes in the product(s) and/or the program(s) described in this publication at any time without notice.

Any references in this information to non-HCL websites are provided for convenience only and do not in any manner serve as an endorsement of those websites. The materials at those websites are not part of the materials for this HCL product and use of those websites is at your own risk.

HCL may use or distribute any of the information you provide in any way it believes appropriate without incurring any obligation to you.

Licensees of this program who wish to have information about it for the purpose of enabling: (i) the exchange of information between independently created programs and other programs (including this one) and (ii) the mutual use of the information which has been exchanged, should contact:

*HCL
330 Potrero Ave.
Sunnyvale, CA 94085
USA
Attention: Office of the General Counsel*

Such information may be available, subject to appropriate terms and conditions, including in some cases, payment of a fee.

The licensed program described in this document and all licensed material available for it are provided by HCL under terms of the HCL Customer Agreement, HCL International Program License Agreement or any equivalent agreement between us.

The performance data discussed herein is presented as derived under specific operating conditions. Actual results may vary.

Information concerning non-HCL products was obtained from the suppliers of those products, their published announcements or other publicly available sources. HCL has not tested those products and cannot confirm the accuracy of performance, compatibility or any other claims related to non-HCL products. Questions on the capabilities of non-HCL products should be addressed to the suppliers of those products.

Statements regarding HCL's future direction or intent are subject to change or withdrawal without notice, and represent goals and objectives only.

This information contains examples of data and reports used in daily business operations. To illustrate them as completely as possible, the examples include the names of individuals, companies, brands, and products. All of these names are fictitious and any similarity to actual people or business enterprises is entirely coincidental.

COPYRIGHT LICENSE:

This information contains sample application programs in source language, which illustrate programming techniques on various operating platforms. You may copy, modify, and distribute these sample programs in any form without payment to HCL, for the purposes of developing, using, marketing or distributing application programs conforming to the application programming interface for the operating platform for which the sample programs are written. These examples have not been thoroughly tested under all conditions. HCL, therefore, cannot guarantee or imply reliability, serviceability, or function of these programs. The sample programs are provided "AS IS," without warranty of any kind. HCL shall not be liable for any damages arising out of your use of the sample programs.

Each copy or any portion of these sample programs or any derivative work must include a copyright notice as follows:

© (your company name) (year).

Portions of this code are derived from HCL Ltd. Sample Programs.

Trademarks

HCL Technologies Ltd. and HCL Technologies Ltd. logo, and hcl.com are trademarks or registered trademarks of HCL Technologies Ltd., registered in many jurisdictions worldwide.

Adobe, the Adobe logo, PostScript, and the PostScript logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States, and/or other countries.

Java and all Java-based trademarks and logos are trademarks or registered trademarks of Oracle and/or its affiliates.

Microsoft, Windows, Windows NT, and the Windows logo are trademarks of Microsoft Corporation in the United States, other countries, or both.

Linux is a registered trademark of Linus Torvalds in the United States, other countries, or both.

UNIX is a registered trademark of The Open Group in the United States and other countries.

Other product and service names might be trademarks of HCL or other companies.

Terms and conditions for product documentation

Permissions for the use of these publications are granted subject to the following terms and conditions.

Applicability

These terms and conditions are in addition to any terms of use for the HCL website.

Personal use

You may reproduce these publications for your personal, noncommercial use provided that all proprietary notices are preserved. You may not distribute, display or make derivative work of these publications, or any portion thereof, without the express consent of HCL.

Commercial use

You may reproduce, distribute and display these publications solely within your enterprise provided that all proprietary notices are preserved. You may not make derivative works of these publications, or reproduce, distribute or display these publications or any portion thereof outside your enterprise, without the express consent of HCL.

Rights

Except as expressly granted in this permission, no other permissions, licenses or rights are granted, either express or implied, to the publications or any information, data, software or other intellectual property contained therein.

HCL reserves the right to withdraw the permissions granted herein whenever, in its discretion, the use of the publications is detrimental to its interest or, as determined by HCL, the above instructions are not being properly followed.

You may not download, export or re-export this information except in full compliance with all applicable laws and regulations, including all United States export laws and regulations.

HCL MAKES NO GUARANTEE ABOUT THE CONTENT OF THESE PUBLICATIONS. THE PUBLICATIONS ARE PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, NON-INFRINGEMENT, AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.